

る)その拳を左手から前方へ突き出して五指をばっと開く(発射)

大役 厄介な(面倒な)「握り拳で頭のことめかみの辺りを叩く」——責任

太陽 夫々の人差指と親指を半円形に(人差指は上親指は下に)曲げた左右両手を向い合せ(形にして円の大きさを表現したを上の方へさし上げる。

代用 代りー用いる。



倒れる 上向けた左手掌の上に、右手の人差指と中指の二指を指頭で直角に立てて(人が二本の脚で立つ姿)、その手を横倒しにする

互いに 掌を内側に指頭を上にした人差指と親指の両手を

手首のところでX形に交叉して「一緒」「同じ」の手まねの要領で夫々両手の二指の指頭を同時につけ合わす。

沢山 「多い」と同じ手まね。

だけ 「唯一つ」と同じ手まね。

竹 掌を前向け人差指と親指で輪にした右手(他の三指は伸ばしたまま)掌を内側にし人差指と親指で輪にした左手(他の三指は右手と同じ)。この左手を斜め上に、或間隔を置いて右手を斜め下にして、離して行く。途中二度ばかり手の運動をとめては続ける。(竹の幹の細長い形状と途中運動をとめるのは竹の節)

竹藪 竹くさむら叢

章魚 掌を下に向けた左手の手甲の皮膚を右手の五指でつまみ、左手の五指を章魚の足のように不規則に交互に動かす、上の右手は章魚の頭部。

度し 「好き」の手まねと同じ。○本を見たい。本―見る―好き。

足し算 (何) 合わせる(会合と同じ要領の手まね)―算術。(何) 左右両手の人差指を十字に組む(足算の記号)―算術

黄昏 夕方(掌を下向けて五指の指頭を右にさした左手を地平線として、右手の指頭を左にさした人差指と親指を曲げて半円を形どり太陽を表わし、左手の向う側に落して行く、即ち日没)―暗い(この手まねを軽く、うす暗い表情)

尋ねる 「訊く」と同じ。

戦う 闘う 「戦争」と同じ。

唯一つ 五指の指頭を前方にさし掌を右側にした左手に、右手人差指(一の数)の指頭をつけてから上へ弾ね上げる。「一つ」を強調したもの。

畳 掌を下に向けて拳にした左手を右胸脇

につけ、その手の上に拳にした右手の腕を立てた肘をのせ、右手に刀を入れて僅かに左右に動かす。畳屋が畳の縁を縫う身振り。

忽ち 「既に」の手まねと同じ要領で表わす。

立つ 上向けた左手の掌の上に、右手の人差指と中指の二指を指頭で直角に立てる。人の二本の脚で立つ姿。

達人 「女人」と同じ手まね。

脱走 右手掌で口を塞さぎ(黙って)次にを下に向け五指の指頭を右にさした左手の下掌を指頭を前方にさした右手の人差指をくぐらせて、前に出し右斜めに進ませる。

建物 五指の指頭を前方にさし、掌を左側にした右手、五指の指頭を前方にさし掌を右側にした左手。この両手を胸の前左右に平行に向い合わせて同時に上へまっすぐに上げて行き、適度なところで、停止させると同時に